

GUNKAN JIMA

軍艦島 [ぐんかんじま]

世界文化遺産

長崎半島から西に約4.5km、三菱石炭鉱業(株)の主力炭鉱があった高島から南西に約2.5km、長崎港から南西に約18kmの沖合いに位置する「端島(はしま)」。

端島は、南北に約480m、東西に約160m、周囲約1,200m、面積約65,000m²という小さな海底炭鉱の島で、岸壁が島全体を囲い、高層鉄筋アパートが立ち並ぶその外観が軍艦「土佐」に似ていることから「軍艦島」と呼ばれるようになりました。

炭坑閉山後、長い眠りについていた「端島炭坑」ですが、2015年、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産の一つとして世界文化遺産に登録されました。日本の近代化を支えた産業遺産「端島炭坑」は、石炭産業の歴史を今に伝えています。



今、新しい歴史を刻みはじめる…

端島の歴史

端島では、1810年頃に石炭が発見され、佐賀藩が小規模な採炭を行っていましたが、1890年三菱合資会社の経営となり、本格的海底炭坑として操業が開始されました。

出炭量が増加するにつれ人口も増加し、狭い島で多くの人が生活するため1916年には日本初の鉄筋コンクリート造の高層集合住宅が建設され、最盛期には約5,300人の人々が住み、当時の東京都の9倍もの人口密度にまで達しました。

エネルギー革命により、エネルギーの需要が石炭から石油に移ったことで、出炭量も人口も徐々に減少し、1974年1月に閉山した後は、同年4月に無人島になりました。

島内人口と出炭量の年次変化



資料：三菱鉱業メント株式会社「三菱鉱業社史」「高島炭礦史」、建築学会論文「軍艦島の生活環境(その2)」長崎造船大学(現 長崎総合科学大学) 片寄俊秀教授

端島年表

1810 (文化 7年)	端島で石炭発見(高島では、1695年に石炭発見)。その頃の端島は草木のない水成岩の瀬にすぎなかった。
1869 (明治 2年)	長崎の六海商社が端島炭坑の開発に着手。
1887 (明治20年)	第一堅坑が開坑。(44mまで開削し、1897年坑内火災により閉鎖された。)
1890 (明治23年)	三菱の経営となる。 三菱が、鍋島孫六郎より10万円で買収し、高島の支社として1891年から採炭を開始した。
1895 (明治28年)	第二堅坑が開坑。(168mまで開削し、1934年に改修が完了、追掘616mに及び、閉山まで採掘した。)
1896 (明治29年)	第三堅坑が開坑。(161mまで開削し、1935年まで採掘した。)
1916 (大正 5年)	日本最初の鉄筋高層アパート完成。
	第四堅坑が開坑。(370mまで開削し、通常は、排気用として使用、第二堅坑に支障がある場合はその代用として使用され、閉山まで採掘した。)
1925 (大正14年)	道端や「子供遊園地」が青空市場になり、多くの住民と行商人で賑わいました。
1941 (昭和16年)	年間出炭最高記録41万1,100トンを達成。
1945 (昭和20年)	石炭積込中の白寿丸が魚雷を受け沈没する。
1955 (昭和30年)	高浜村端島と高島町が合併し、高島町端島となる。
1965 (昭和40年)	三ツ瀬新坑より出炭開始。(閉山まで採掘した。)
1974 (昭和49年)	1月15日端島駅が閉山。同年4月20日に無人島になりました。

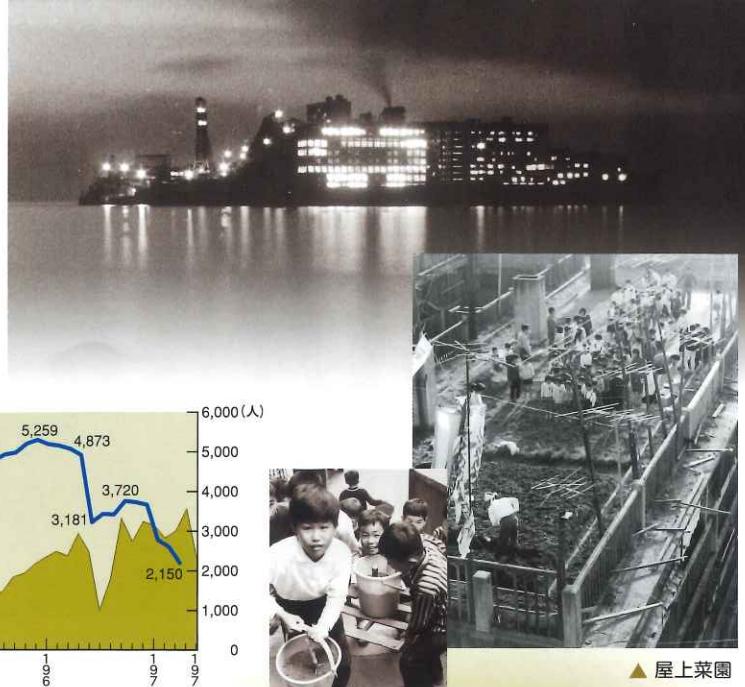
島の暮らし



道端や「子供遊園地」が青空市場になり、多くの住民と行商人で賑わいました。



端島は常に高波の被害を受けてきました。特に台風のときに襲いかかる波の威力は想像を絶するものでしたが、台風に慣れっここの島の人々は、屋外で大波見物をすることもあります。



▲屋上菜園

▲屋上に土を運ぶ子どもたち

■炭坑の仕事

1891年から1974年の閉山まで約1,570万トンもの石炭を採掘した「ヤマの男」たち。海底炭鉱である端島での採掘作業は、海面下1,000m以上の地点にまで及びました。勾配はきつく、気温30℃、湿度95%という悪条件のもと、ガス爆発など常に危険と隣り合わせの仕事はとても過酷なものでした。鉱内で交わされる「ご安全に」という挨拶に、「絶対に事故を起さない」という気持ちが込められていました。

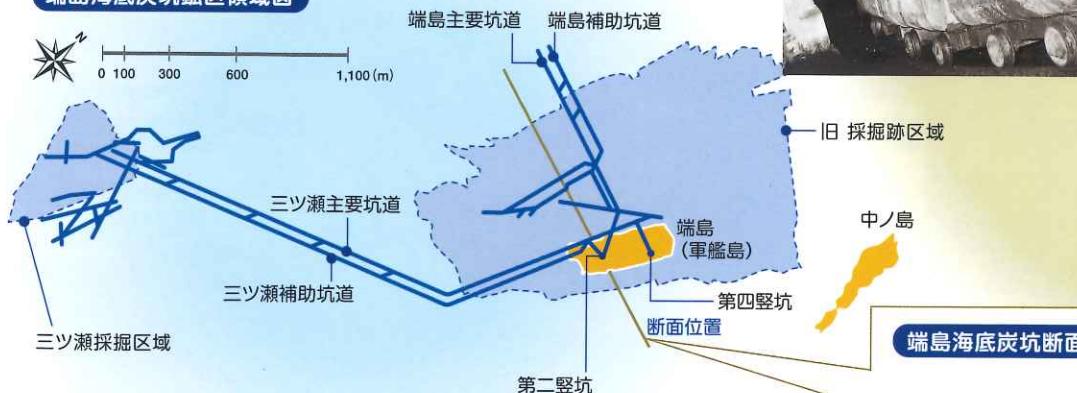


◀ 炭車による硬(ボタ)の搬出

▼ 坑木を満載した「枠台車」を幹線軌道まで押していく。

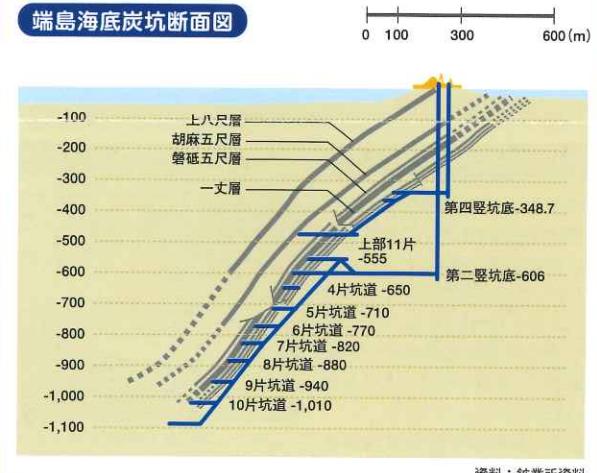


端島海底炭坑鉱区領域図



資料：鉱業所資料

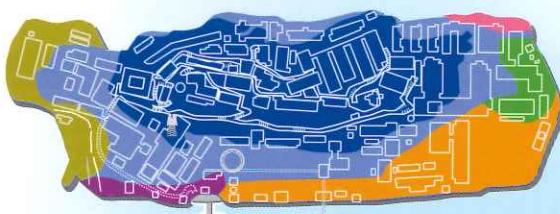
端島海底炭坑断面図



資料：鉱業所資料

■島の拡張

当初、草木のない水成岩の瀬にすぎなかったこの小さな島は、採掘技術の発達とともに、周りを6回にわたって埋め立てる形で護岸堤防の拡張を繰り返し、今日の島の形状になりました。もともとは現在の3分の1ほどの大きさだったといいます。



- 1893(明治26)年以前
- 1901(明治34)年拡張
- 1897(明治30)年拡張
- 1907(明治40)年拡張
- 1899(明治32)年拡張
- 1931(昭和6)年拡張
- 1900(明治33)年拡張

- 1901(明治34)年拡張
- 1907(明治40)年拡張
- 1899(明治32)年拡張
- 1931(昭和6)年拡張



1910年頃



1959年頃

上陸にあたっての注意事項

- 見学施設区域(見学広場・見学通路)以外の区域に立ち入らないでください。
- 見学施設においては、次の行為をしないでください。
(1) 柵を乗り越えるなど危険な行為 (4) 喫煙
(2) 施設を汚す行為 (5) 他人の迷惑となる行為
(3) 飲酒(船内を含む)
- 安全誘導員その他の係員の誘導・指示に従ってください。
- 見学施設を安全に利用するのに適した衣服・靴を着用してください。
- ごみは持ち帰ってください。
- 未就学児童又は身体障害者等一人での歩行が困難な方には、保護者又は介助者が同行してください。

※ 見学施設は、気象又は海象条件によって利用できないことがあります。
利用できないときは、施設見学料はお返しします。

※ 飲酒されている方は、危険防止のため見学施設の利用はできません。

※ 小学校の児童については、保護者の承諾書が必要です。

施設見学料

※上陸に際しては、
別途船代も必要となります。

	個人	団体(15人以上)
一般(12歳以上)	310円	250円
小学校の児童	150円	120円

お問い合わせ

長崎市コールセンターあじさいコール
TEL.095-822-8888

軍艦島を学ぶ

軍艦島資料館 TEL.095-893-1651
高島石炭資料館 TEL.095-896-3110 (長崎市高島地域センター)

